さくら咲き　心地よいまち　ずっと　めぐろ

目黒区

面積 ..... 14.67㎢
世帯数 160,638世帯
人口 280,126人
（うち外国人） 10,621人
予算 1,300億円
職員数 2,060人

目黒区総合庁舎
文化的価値の高い既存建物を改修し平成15（2003）年1月にオープン。中目黒駅周辺の高層ビルを背景に。

目黒川の桜
区内の目黒川沿いの約3.8㎞に800本ほどの桜が続き、人気の花見スポット。

目黒のさんま祭
目黒区民まつりで行われる、落語「目黒のさんま」に因んだお祭。友好都市・気仙沼市の皆さんが持参したさんまを焼いて提供。

歴史・見所・名所

太古から人々が住み、集落を形作ってきた目黒。鎌倉幕府の公的記録をつづった『吾妻鏡』では、建久元（1190）年 11 月の条に、武蔵武士目黒彌五郎の名が記されており、歴史上では鎌倉時代までさかのぼることができる「目黒」ですが、地名の由来は定かではありません。江戸時代には、大都会江戸に生鮮野菜などを供給する典型的な近郊農村として発展し、将軍のタカ狩りの場としても有名になり、目黒不動尊など目黒三社への「目黒詣で」に向かう人々を、江戸市中からたくさん招き入れました。明治以降は駅を中心に竹林や畑が宅地へと変わり市街化が進み、昭和 7（1932）年に目黒町と碑衾町が合併して目黒区が誕生、令和 4（2022）年に区制施行 90 周年を迎えました。

区内には、国の重要文化財に指定された旧前田家本邸、瀧泉寺（目黒不動）、円融寺などの古刹や東京大学、東京科学大学（令和 6（2024）年 10 月 1 日に、東京医科歯科大学と東京工業大学が統合して設立）などの文教施設も多く、歴史に彩られ、文化の薫り高いまちです。「自由が丘」「中目黒」などのおしゃれなエリアもあり、「住んでみたいまち」として人気の高い地域です。

概要

23 区の南西部、武蔵野台地の東南部に位置し、目黒川、呑川による谷地と目黒台と呼ばれる台地が織りなす起伏に富んだ地形で、坂の多いまちをつくっています。面積は 14.67㎢で 23 区全体の 2.3％にあたり、23 区中 16 番目の広さです。交通の利便性が高く、都心に近い良好な住宅地として発展してきました。

国勢調査に基づく人口は、昭和 40（1965）年に 30 万人近くに達したのをピークに減少に転じ、平成 7（1995）年には 24 万 3,100 人となりましたが、令和 2（2020）年には 28 万 8,088 人に回復しています。

主要課題

1　学び合い成長し合えるまち

子どもをいじめや虐待などから守り、あらゆる場面で人権が尊重される地域社会をつくります。また、保健、医療、福祉、教育などさまざまな分野の連携により、楽しく、安心して子どもを産み、育てられる地域社会をつくるとともに、学校、家庭、地域が一体となり、子どもたちが自分らしく成長できる教育環境を整えます。さらに、生涯にわたり、誰もが学びの機会を得ることができ、その成果を地域の中で生かすことができるまちを実現します。

2　人が集い活力あふれるまち

区民一人ひとりが地域に関心を持ち、互いに個性を認め合い尊重し合う地域社会をつくります。また、目黒区の産業の特徴を生かした人

材や技術、新しい企業の育成により地域産業の活力を高めるとともに、魅力と活力のある商店街づくりによりまちのにぎわいを創出します。さらに、誰もが気軽に芸術やスポーツを楽しむことができる環境や、地域間交流などを通じて、豊かな文化を育むまちづくりを進めていきます。

3　健康で自分らしく暮らせるまち

支援が必要な人が誰一人取り残されることなく、互いに助け合い、支え合う包摂的な地域をつくります。また、保健・医療・福祉の連携や高齢者の生きがいづくりなどにより、健康面、衛生面での不安が解消され、誰もが生涯にわたり、安心して生き生きと生活することができるエイジレス社会を実現します。さらに、高齢者や障害のある人が必要な支援を受けながら、差別や偏見を受けることなく、自立し充実した生活を送ることのできる地域社会を実現します。また、感染症などの健康危機にも対応できる質の高い医療提供体制の整備や、食の安全などの生活環境の確保に努めます。

4　快適で暮らしやすい持続可能なまち

駅を中心とした安全で快適な歩行空間や、まちの個性や地域特性を生かした良好な景観など魅力ある街並みづくりを進めます。また、快適な住環境の確保や安全で便利な道路網、公共交通網、バリアフリーの都市空間など、住みやすい生活環境を整備します。さらに、水とみどりの豊かな地域の自然環境を守り、育むとともに、再生エネルギーの活用やごみの減量化など、地球環境への負荷の少ない生活行動や事業活動を促し、豊かな暮らしを次代に引き継ぐことができる地域社会をつくります。

旧前田家本邸
区立駒場公園内にある旧加賀藩主前田家の本邸（和館・洋館）で、平成25（2013）年に重要文化財に指定。

目黒天空庭園
大橋ジャンクションの屋上に平成25（2013）年3月にオープン。巨大なループ状の回遊式公園で、四季折々の草花を楽しめる和風庭園。

5　安全で安心して暮らせるまち

木造住宅密集地域や狭あい道路など防災上課題がある地域の環境整備や、住宅や施設、都市基盤の防災・減災機能の向上を進めます。また、家庭における日頃からの備えや防災教育をはじめとして、区民、地域団体、企業、区がそれぞれの役割を理解し災害に備える自助・共助・公助の連携・協力体制を整えます。さらに、時代や環境に伴って変化する犯罪や消費者被害、交通事故、感染症の脅威などから区民を守り、誰もが安全で安心して生活できる環境をつくります。

将来展望

令和3(2021)年3月に策定した基本構想では、約20年後に目指す目黒区の将来像を「さくら咲き 心地よいまち ずっと めぐろ」と定めました。

「さくら咲き」は、目黒らしさという視点を踏まえて、みどり豊かな環境とそこで暮らす区民の笑顔を「さくら」に例え、時代を通じて花が咲き誇る姿をイメージして表したものです。

目黒区は、将来にわたり社会や環境が変化する中にあっても、地域で暮らす人や働く人、学ぶ人はもちろん、訪れる人など、誰にとっても、いつでも、いつまでも心地よいと感じるまちをめざします。

また、定めた将来像を実現するために、「平和と人権・多様性の尊重」「区民と区が共に力を出し合い連携・協力する区政の推進」「未来を見据えた持続可能な行財政運営」の3つの区政運営方針と、「学び合い成長し合えるまち」「人が集い活力あふれるまち」「健康で自分らしく暮らせるまち」「快適で暮らしやすい持続可能なまち」「安全で安心して暮らせるまち」の5つの基本目標を掲げ、施策を展開していきます。

今後も複雑化・多様化する行政課題に対し、迅速かつ的確に対応し、区に関わる全ての方にとって「心地よいまち」となるよう区政の推進に努めていきます。